産業構造審議会保安・消費生活用製品安全分科会 第15回火薬小委員会 議事要旨

日時：令和6年3月15日（金曜日）10時00分～12時00分

場所：本館17階東4（第5共用会議室）及びWeb

出席者

緒方委員長、岩田委員、大貫委員、川崎委員、熊崎委員、鈴木委員、高橋（賢）委員、高橋（裕）委員、寺下委員、日吉委員、茂木委員、山内委員、山田委員、渡邊委員

議題

- (1) 火薬類取締法技術基準の見直し等について（審議事項）
- (2) 火薬類取締法性能規定化作業の進捗状況について（報告事項）
- (3) 火薬類の事故の発生状況について（報告事項）
- (4) 今後の火薬小委員会の動き（報告事項）
- (5) その他

議事概要

会議冒頭、事務局から、緒方委員が保安・消費生活用製品安全分科会長である大谷分科会長から火薬小委員会委員長として指名されたことについて報告。

- (1) 火薬類取締法技術基準の見直し等について（審議事項）
 - 事務局より、議題1「火薬類取締法技術基準の見直し等について」を説明（資料1 火薬類取締法技術基準の見直し等について）。
 - 各委員により質疑等が行われた後、内容について了承された。

【委員からの主な意見】

- ・ 目視や定期点検等のように規則等に文言で明示されているもの以外にも、アナログ規制となっているものはあるのではないかと。それらの見直しについては、どう考えているのか。

（事務局回答）

- 今回は、デジタル臨時行政調査会が示した「デジタル原則に照らした一括見直しプラン」に即して、代表的なアナログ規制である7項目についての見直しを進めているところ。その他のアナログ規制については、皆さまのご意見を伺いながら、今後の検討課題としていく。
- ・ デジタル化について、どのようなタイムラインで考えているのか。デジタル化を進めるにしても、まだ技術が追い付いていなかったり、実施基準が整っていなかったりするものもあるのではないかと。

(事務局回答)

- ▶ デジタル庁が示している工程表では、今年の6月までにアナログ規制の見直しを行うこととされている。他方、デジタル技術の活用については、委員のご指摘のとおり、テクノロジーの発展状況によるところもある。
 - ▶ 今回の見直しは、デジタル技術も活用できるように制度をつくっておき、今後の技術進展に合わせて新しい技術を活用できるようにしようというもの。
- ・ デジタル技術の導入については、事業者・行政のいずれも手探りの状況だと思う。技術の導入に際しては開発側のノウハウの蓄積も大切であるが、一事業者だけで担うには荷が重いだらう。開発・導入する事業者側、審査する行政側それぞれの情報や知見を可能な範囲で共有し、例示基準等で具体的な活用事例等を示してもらえると、デジタル化が進みやすくなるのではないか。

(事務局回答)

- ▶ ノウハウ・知見の蓄積を行っていくことは重要と考えている。現在、デジタル庁でドローンやセンサー等の新たな技術の有効性についての調査を行っており、そういった情報についても共有することが大切だと思う。ノウハウ・知見の共有方法について、検討していきたい。
- ・ デジタル化に際しては、セキュリティの課題もあると思う。現在のセキュリティは万全ではなく、サイバーテロ等を受けると深刻な影響を受けることもある。デジタル化を進める上で、デジタル保安をどう考えているのか。

(事務局回答)

- ▶ デジタル庁の実証事業の中でも、セキュリティの課題について認識している。デジタル化についての知見を深めていく中で、セキュリティ対策についても検討していきたい。

(2) 火薬類取締法性能規定化作業の進捗状況について (報告事項)

- 事務局より、議題2「火薬類取締法性能規定化作業の進捗状況について」を説明(資料2 火薬類取締法性能規定化作業の進捗状況について)。

【委員からの意見なし】

(3) 火薬類の事故の発生状況について (報告事項)

- 事務局より、議題3「火薬類の事故の発生状況について」を説明(資料3 令和5年における火薬類の事故発生状況について、資料4 ニトログリセリン製造時における危険事象について)。

【委員からの主な意見】

- ・ 学校での理科実験における火薬類の取扱いにあたって、火薬類取締法上、何が合法で何が違法となるのか、理科実験を行う先生方に正しい火薬類の取扱いを理解しておいて頂くことが、事故防止や犯罪防止の観点から必要。
- ・ 煙火事故の原因は様々あるが、行政側のノウハウ不足という側面もあると思う。都道府県担当者の人材育成にも、国の支援をお願いしたい。
- ・ がん具煙火の事故防止のための広報は重要であり、禁止事項ばかりのネガティブな情報発信とならないよう、ポジティブかつシンプルに、「こうすれば安全に花火が楽しめる」というような発信として頂きたい。

(事務局回答)

- 本日頂いた各委員からのコメントを踏まえ、今後の事故防止のための対策を進めていく。火薬小委員会でも報告をしていくので、委員におかれても引き続きご支援を頂きたい。

(4) 今後の火薬小委員会の動き (報告事項)

- 事務局より、議題4「今後の火薬小委員会の動き」を説明(資料5 今後の火薬小委員会の動き)。

【委員からの主な意見】

- ・ 次回委員会において、法令遵守の取り組みの一環として進める保安教育のデジタル化の取り組みを説明させて頂きたい。

(5) その他

- 特になし。

[お問合せ先]

経済産業省 産業保安グループ
鉦山・火薬類監理官付
電話：03-3501-1870